

広報おおつち

October.2011 No.520

Otsuchi 10



広報おつち
Otsuchi 10

目次

3-13 **復興へ一。**

～大槌の歩んできた一步一步～

- 4-5 消失とはじまり 3.11 津波襲来
- 6-7 支え合いながら 避難生活と復旧活動
- 8-9 前を向くために 6.18 犠牲者合同慰霊祭
- 10-11 感謝そして決意 7.26 自衛隊撤収
- 12-13 戻ってきた笑顔 大槌の明るい未来

14-15 **新町長の施政方針**

教育委員会だより

16-17 **城山の風** 第44号

18-19 **まちのお知らせ**

20 **広報の絆 広報の力**

編集後記



表紙

**小槌神社例大祭で
復興祈願**

9月25日(日)、小槌神社にて行われた復興祈願祭。会場は賑わい、迫力ある神輿や躍動感溢れる奉納舞からは、復興の光が感じられた。

特集 記録写真とともに

復興へ。

～大槌の歩んできた一步一步～



消失とはじまり

3・11 津波襲来

突如として襲った大津波は、この小さな町をいとも簡単に飲み込んでいった。多くのものを失った大槌町。同時に、災害との長い戦いがはじまった。





1. 町が次々と津波に飲み込まれていく。家々は音を立てて破壊され、土煙が舞う
2. 役場周辺を空から見た様子。大槌の町機能はほとんど失われた
3. 川を駆け上がった津波により、橋の上はがれきの山
4. 現在役場仮設庁舎を置く、大槌小学校の校庭。被災時には波が流れ込み渦を巻いた
5. 津波の後各所で火災が発生。至る所に焼け焦げたがれきや車両が積み上がっていた



支え合いながら 避難生活と復旧活動



1



3

1. 電気も復旧していない大楯に、幾度となく雪が降り積もった
2. 被災直後の対策本部。狭い部屋の中、報告や指示の声が飛び交う
3. 中央公民館窓口には、安否確認などで連日人があふれた



2



6



7



8



9



10



4

- 4. ライフラインが未復旧の中、共同の炊事場を作り協力しあう避難者
- 5. 寒さをしのぐため、集めてきた廃材を燃やして暖をとる
- 6. 共に助け合いながらの避難所暮らしは、8月まで続いた
- 7. 電気は当分の間使えず、避難所では発電機が活躍した
- 8. 避難者独自に風呂を作った避難所も。自前で環境を作り上げていった
- 9,10. 復旧と同時に海中の捜索活動も行われた。中には被災時刻で止まった時計も



5



前を向くために

6・18 犠牲者合同慰霊祭

6月18日、東日本大震災の日から数えてちょうど100日目となったこの日、大槌町東日本大震災犠牲者合同慰霊祭が行われた。翌日19日は、大槌町東日本大震災犠牲者お別れの会と題した遺族以外の参列者のための会が行われ、2日間で約6000人が来場し、慰霊碑の前に献花した。

合同慰霊祭には、震災で亡くなった方々の遺族が招待され、約2000人が参列した。被災者の名前が読み上げられ、その名簿が慰霊碑に捧げられた。未だ行方不明の方の家族も、お別れの会に参加し、花を手向けたが、共通して口にしたのは、「はじめ、気持ちの区切りをつけたい。」という言葉だった。

児童代表の佐々木晴也さん、倉本万愛さんは、追悼の言葉の中で、「いただいた応援を勇気・やる気・元気のもとにして、心をつなぎ、大きな力として前進したい。」と述べた。

慰霊の花を手向けることで、悲しみにくれる日々に区切りを付け、家族のため、自分のため、人々は前を向いて歩き始めた。



2



1



4



3

1. 2日間で約6000名が来場し、慰霊碑に花を手向けた
2. 追悼の言葉を述べる東梅町長職務代理
3. 被災者名簿は、遺族代表の加藤伸基さんによって奉納された

4. 慰霊碑の後ろには、菊の花によってひょうたん島がかたどられた
5. 児童代表で追悼の言葉を述べた佐々木晴也さん、倉本万愛さん
はともに小学6年生
6. それぞれの思いをかみしめる様に、静かに手を合わせる参列者



6



5

感謝そして決意

7・26 自衛隊撤収

これまで家族のように支援してくれた自衛隊の撤収。
大きな感謝と別れの寂しさに、町の人々が、大槌の空が、泣いた。



花束を渡す新田亮介さん、小笠原璃久さん、相馬咲さん、沢館佳奈さん



おさなご幼稚園の園児たちから、ペンダントのプレゼント



新宅群長に大槌の未来を託され、決意の敬礼

7月26日、自衛隊の撤収の日。ふれあい運動公園野球場で、感謝のセレモニーが行われた。

陸上自衛隊の皆さんは震災以降、町内での人命救助や遺体捜索、がれき撤去、被災者に対する給食、入浴、物資輸送などの活動を行ってきた。

セレモニーでは、吉里吉里中3年の佐野智則さんが感謝の言葉を述べ、町から感謝状が贈呈された。また、小学生、幼稚園児、キッズコーラス「あくどまめ」の皆さんから、花束や手作りペンダント、歌のプレゼントが贈られた。

第5高射特科群の新宅正章群長は、挨拶の中で贈り物一つ一つに「ありがとう。」と感謝した。自衛隊への感謝の気持ちを伝え、見送りをするために、会場となったふれあい運動公園野球場にはたくさんの方が集まった。式の途中からは、強い雨が降ってきたが、傘が無くても会場を後にする人はいなかった。大きな感謝をもって見送られ、自衛隊は大槌を去った。手を振る町民の顔は、復興への決意に満ちていた。



沿道には多くの方が並び、手を振り続けた



雨に濡れながらも、最後まで残って感謝の気持ちをかかげた



4

た笑顔 未来



1



2



3

震災直後、家族や友人、家などを失った絶望感で、大槌町から笑顔が消えた。わざと明るくふるまう人、声を張り上げて元氣を見せる人はいいても、心から笑う人は誰もいなかった。

あれから約7か月、今、町には笑顔が戻っている。悲しみを乗り越え、復興に向けてそれぞれが歩き出した。もちろん、多くの支援が町民を支えてくれたことは言うまでもない。

しかし、それだけではない。食べるものや住む家がある安心



6

1. 大槌再興祭り！にて。被災地からも元気を発信
2. B & G 体験クルーズに参加した子どもたちが笑顔で報告
3. ウルトラマンバス寄贈イベントで本物と記念撮影
4. バザーイベントでC.Aさんと整備士さんになりきる
- 5, 6. 東京プラススタイルが再びやってきて大盛り上りの各校吹奏楽部
- 7, 8. あこがれのAKB48と記念撮影。夢のような体験



5

戻ってき 大槌の明るい



7



大槌町小中学校仮設校舎開校式。学び舎を同じくする仲間とがっちり握手



8

感、好きな人や友達に会えた喜び、支援に対する感謝の気持ち、それらが、町民の心に活力を取り戻させた。

子どもたちは今、明日への希望を胸に、心からの笑顔を見せてくれる。9月15日に行われた小中学校仮設校舎開校式では、まだ校舎の中を見ていない児童たちが、「早く通いたい。」と笑顔で答えた。

一歩ずつ、復興の歩みを進める大槌町。大槌の未来には、笑顔があふれている。

はじめに

あの忌まわしい3月11日の巨大地震津波、その後の火災により人口の1割にも及ぶ、多くの町民の尊い命を奪われております。また、3878棟もの建物が被害をうけるなど、これまで築き上げてきた、かけがえのない街並みも、産業経済基盤、すべてにわたって壊滅的となりました。

「愛するふるさと大槌」の再生は町民の悲願であります。しかし、被災者の間には、これからの先の暮らしと生活の立て直しをどこにもとめたらよいのか不安と苛立ちが広がっています。若者世帯を中心に雇用の関係で避難先の市町村への転出が伝えられます。震災前に、過疎指定とされた当町は、産業が低迷し、人口減少が続いてきました。震災後の半年間で、実に人口の約15%が減少しています。さらに、転出届を提出しないまま、町外で避難生活されている方も多く、今後、人口流出は拍車がかかることが推測されます。一刻の猶予もありません。今まさに、町の存亡の岐路にあるといっても過言ではありません。

このような状況下、震災復興が、以前の状態に戻るだけの単なる復旧ではなく、町の将来の発展につながる創造的な復興の考え方が必要です。

災害を契機に、今までの古い体質や

新町長の施政方針

8月28日に就任した碓川豊新町長。初議会となる9月定例会において、今後の施政方針について述べた。



しがらみを全て流し、新たな気持ちで、心をひとつに、町民が一丸となって、新しい大槌町の再生を進めなければなりません。町の復興は、まさに零からのスタートです。

私は、復興のコンセプトとして、海の見える「つい散歩したくなる拘りのある美しいまちづくり」と掲げます。コンパクトの剥き出しや個性のないまちづくりは避け、こだわりのある品質の良い素敵な美しいまちづくりを進めます。平時では困難でも、震災時だからこそ、思い切って進めることも可能です。

安全・安心の確保

まちづくりの基本として、5つの柱を掲げます。最初に、「安全・安心の確保」として、災害とは縁を切るハード・ソフトの施策を組み合わせた「多重型防災のまちづくり」を目指します。具体的には、土地の造成については、防波堤・防潮堤など防災施設の整備状況を踏まえ、津波災害リスクを考慮に入れた「三段方式」とし、平時、大潮や雨水で冠水する場所は、建築基準法第39条による「災害危険区域」に指定し、住居の用に供する建築物の建築の禁止など土地利用制限も検討します。

ただし、被災地は、地域ごとに、異なる地理・地形をもち、歴史や文化、生活の糧となる産業基盤、社会を支えるコミュニティや自治組織などが存在します。地域の個性や特徴を理解し、復興後の地域の姿に、自らの願いを反映させる仕組みが不可欠です。そのため、地域ごとに「地域復興協議会」を立ち上げ、多くの町民の皆さんの意見交換を促進します。

また、震災により国道45号線が各地で寸断されるなか、三陸縦貫自動車道は、災害対策、緊急輸送道路として、主要地方道大槌小国線は、後方支援基地の遠野市との連絡道路として大きな役割を果たしました。

三陸地域の復興のため、災害に強い

まちづくりに必要不可欠な道路として、国や県に強く整備促進を要望します。

さらに、私は、津波災害とは縁を切り、再び、津波による犠牲者を一人たりとも出さないため、この悲劇の記憶を風化させない取り組みが重要と考えます。そのため、被災者一人一人が生きてきた証として、生前の記録を収集、公開することで、震災の記憶を後世に対する教訓として未永く語り継いでいくことができます。町民の皆様の記憶の新しいうちに、聞き取り調査を始めるべく、協力者を求めることも視野に入れております。

犠牲者への慰霊を目的とした「鎮守の森公園」内に、御霊の碑の建立と町民が希望と勇気を持てる「鐘（カリヨン）」の設置と併せて、新しい大槌の再生のシンボルとします。

くらしの再建

次に、被災者の「くらしの再建」ですが、8月11日に、町内の全避難所を閉鎖し、すべての避難者が仮設住宅等に移動されました。今後は仮設住宅における生活環境の改善を図るため、街灯や道路待避所の設置、舗装修繕などを順次行い、安全で安心な環境づくりに努めます。

さらに、震災後のアンケート調査では、公営住宅建設が多く望まれていることから、復興計画と並行して、災害

公営住宅の早期建設を進めます。

また、仮設住宅入居者の生活の質の向上を図るため、プロジェクト・チームを設置し、消防、警察、ボランティアセンターや東京大学など関係機関とも連携し、自治会の立ち上げなどを支援しております。

今後は、各課に分かれた被災者支援窓口の一本化など、組織体制の充実を図りながら、自治会などコミュニティ組織やボランティア等との協働により、住環境点検など生活支援を展開します。併せて、バス運行ダイヤの調整等を通じて、利用しやすい交通手段の構築を目指します。

高齢者には、今後、仮設住宅での生活が困難になる方も予想されることから、団地内に設置した共同仮設住宅サポート拠点の活用を図り、高齢者の方々の体調変化、孤独死、自殺予防などに取り組みます。

また、県立大槌病院など町内すべての医療機関や福祉施設の多くが被災したことから、安心して保健・医療・介護・福祉、生活支援サービスが受けられるよう、施設の復旧支援とともに、ニーズの把握に努め、心のケアなどに取り組みます。

地域経済の再興

雇用情勢は、震災による企業の事業休止など、非常に厳しい状態にあります。緊急雇用対策事業を通じて、今後

も事業創出により雇用の確保を努めます。さらに、人口流出に歯止めをかけ、復興後の生活を安定させるため、「雇用を生み出す」「地域経済の再興」が不可欠です。

そのため、企業の立地、特に水産加工場の早期再建は喫緊の課題です。工場立地用地の確保も含め、水産加工団地の整備促進を図ります。

また、壊滅的な被害を受けた水産業については、再生計画書の早期策定とともに、魚市場及び定置漁場の再興、共同化による漁船整備等を支援します。事業所、商店等の復興についても、国、県の復旧に係る補助金活用について、関係者協議を重ねるとともに、休業補償に係る国の雇用調整助成金に、今後町単独の嵩上げ補助を継続し、「雇雇主の負担軽減に努めます。」

教育環境の整備

次に、将来を担う「子供たちの教育環境の整備」ですが、震災により、吉里吉里地区の小中学校を除く学校施設が甚大な被害を受けました。悲惨な状況のなか、教育関係者やユニセフをはじめ、多くの団体の絶大なご支援ご尽力と、何よりも、わが町の子どもの「この震災には負けない」という前向きな姿勢と積極的な学習活動等により、当町の学校教育も徐々に正常化の道を歩んでいます。

9月には、寺野地区のふれあい運動

公園に、仮設の校舎と体育館を設置、被災校全ての授業が再開されました。今後、大槌ならではの独自の復興教育として、この辛い被災体験の伝承を学習の基本とします。

また、学校の配置については、学区の見直しのほか、とくに被災小学校、中学校の再編を視野に入れた「小中一貫教育校」の設置について、国や県の指導・助言を戴きながら検討します。さらに、子供たちによる「復興計画」を審議する「子供議会」の開催など、教育委員会と連携した取り組みを実施します。

復興への体制強化

最後に、これらの取り組みの推進にあたっては、「復興に向けた体制強化」が課題です。当町では、行財政改革の一環として、職員定数削減の結果、被災時の職員数は136人、平成16年度と比較して、8割程度の水準まで減ったところに、震災により加藤前町長を含む40名もの尊い職員を失っておりま。県内外の市町村等からの職員派遣により役場機能は徐々に回復途上にあります。今後、通常業務に加え、復旧、復興事業に着手するため、複数の副町長制及び部局制を速やかに導入します。

また、新たな人員配置は、国や県の派遣職員を充てます。国、県、町が太いパイプで結ばれながら、それぞれの

復興計画と歩調を合わせた事業着手が、町の早期再生の鍵になると考えます。また、派遣職員との業務執行を通じて、復興を担えうる次代の職員の育成を願うものであります。

このような考え方をもとに、復興計画の策定期間は年内とし、10月から12月までの3か月間を、ステップ1、2、3とし、対話、調整、合意形成を経て、一日も早く計画を策定し、復興へ歩み出します。

なお、復興計画は、町勢発展計画の意味合いも持たせ、平成30年度までの8年間を計画期間とする町の主計画とします。それに沿った実施計画を3期に分け策定し、復興事業を推進します。併せて、財源は、国・県の動向を見極めながら、5年ないし10年間の財政計画を作成し、適切に確保します。

また、現在の仮設庁舎では、町民窓口の待合室が庁舎外にあるなど、ご不便をおかけしています。また、今後の組織再編により執務室等が不足することから、大槌小学校を改修のうえ、早期移転したいと考えます。

最後に、震災により亡くなられた町民皆様の無念さに思いをいたし、大震災の苦難を乗り越え、一刻も早い「愛するふるさと大槌」の再生を目指し、「公平、実行、思いやり」を基本に、信念と情熱を持って全力を傾注して取り組んでまいります。

県大会出場おめでとう 中学校新人体育大会

- 【サッカー】 大槌中学校
- 【ソフトボール】 大槌中学校
- 【ソフトテニス】
村岡 俊 (大槌中)
- 【バスケットボール女子】
大槌中学校
- 【卓球団体男子】
吉里吉里中学校
- 【卓球個人男子】
倉本拓磨 (吉里中)
湊川真星 (吉里中)
- 【柔道個人男子】
小松流維・松坂勇毅
菅野柚樹・関 真人
吉田直歩 (大槌中)
- 【柔道団体女子】 大槌中学校
- 【柔道個人女子】
山崎梨杏・石井エリナ
岡本佑里花・小笠原莉穂子 (大槌中)
- 【剣道団体男子】 大槌中学校
- 【剣道個人男子】
上田哲也・栗澤 認
三浦智紀 (大槌中)
- 【剣道個人女子】
佐々木史江・佐藤 舞
- 【相撲】 大槌中学校

三月に発生した大震災のために、ぼくたち大槌町の4つの小学校は校舎が使えなくなり、ぼくはこれからどこで勉強をするのだろうととても心配し、不安な日々を過ごしていました。でも様々な方々の支援のおかげでスクールバスをつかい、吉里吉里小学校や山田町の青少年の家で4月から今まで学習してきました。

昨年度までの生活と違い、いろいろと不便なことや、やりたくてもできない事もありました。しかし、僕たちの学年ではこんな時だからこそ友達や家族との絆を深め、今できること、ここでしかできない事を精一杯やり、たくさんさんの思い出を作ろうとみんなで協力してこまごまがんばってきました。ぼくたち児童会執行部が計画をたてて、一年生を迎える

仮設校舎開校式児童代表挨拶

新田 亮介 君

大槌小学校 6年

会やミニ運動会を成功させ、全校のみんなで楽しむことができたことはいい思い出になりました。また、先日は6月に行くことができなかつた修学旅行にもいくことができました。来週からはこの仮設校舎で学習することになります。この困難に負けず、転校せざるをえなかつた友達のぶんまで、この校舎で多くのことを学び、将来はぼくたちの力で、この大槌町を復興させていきたいと思っています。

この仮設校舎の建設に関係されたたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れずに、これから一歩一歩確実に前へ進んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

<大槌町奨学生募集について>

大槌町教育委員会では、平成23年度大槌町奨学生を追加募集しております。

<対象となる方>

- ①高等学校またはこれと同程度の学校に在学する人
- ②大学等(短大、高専および大学院、専門学校を含む)に在学する人

<奨学金の貸付金額>

- ①高等学校またはこれと同程度の学校に在学する人
▼自宅通学者 月額1万円
- ▼自宅外通学者(下宿・寮生など) 月額1万5千円
- ②大学等に在学する人 月額3万円

<貸付期間>

就学する学校の正規の修学期間になります。(今年度分は4月に遡っての貸付となります。) 出願手続き、提出書類については問い合わせください

<申し込み・問い合わせ先>

〒028-1121 岩手県上閉伊郡大槌町小槌32-126
大槌町教育委員会 学務課 (0193-42-6100)

町内小中学校児童生徒在籍数

仮設住宅への入居完了から1ヶ月を経過し学校の児童生徒数もようやく落ち着いてきたところです。

震災後、町外県外へ避難していった子どもたちの数は、小学校で150名ほど、中学校で60名ほどでした。そのうちの20名が2学期までに戻ってくることができました。

9月1日現在の児童生徒数は表の通りですが、3月1日1224名あった在籍数が、9月1日には957名と267名の減となっています。

避難先で学んでいる子どもたちの一日も早い帰りを待ちながら、合同校舎での学習をがんばっています。

学校名	男子	女子	合計
大槌小学校	115	89	204
安渡小学校	18	23	41
吉里吉里小学校	59	68	127
赤浜小学校	14	6	20
大槌北小学校	85	97	182
大槌中学校	131	157	288
吉里吉里中学校	49	46	95



城山の風

発行：大槌町教育委員会 第44号 23.9.26
岩手県上閉伊郡大槌町小槌32金崎126 TEL 42-6100

教育行政基本理念

町づくりは
人づくりにあり
人づくりは
教育にあり

笑顔あふれる学舎

～ 22日から小中そろって学習開始～

9月15日に体育館の引き渡し式と校舎開校式を行った大槌町小中学校仮設校舎での学習が本格的に始まりました。この校舎では、小学校4校447名、中学校1校288名の計735名が学びます。

校舎は、寺野の「大槌ふれあい運動公園」多目的広場に建てられ、いずれも軽量鉄骨造りで小学校棟2棟、中学校棟2棟、それに体育館棟1棟となっており、16,000㎡の敷地の延べ面積5,600㎡の施設となっております。

施設のうち、体育館棟とグラウンドの整備は日本赤十字社の支援によるものです。子どもたちが元気に楽しく運動してほしいとの思いで贈られた体育館には「スマイル体育館」略して「スマ体」の名称がつけられました。

この名前は、みんなの笑顔が集まるところと願いを込めて、大槌中学校生徒会が相談して決めたものです。

開校式に先立って、17日に小学校、19日に中学校の引っ越し作業がありました。

作業には、保護者のみなさんをはじめ、先生方、全国から駆けつけてくれた教職員組合の先生方、そして、県内各地からのボランティアのみなさんが汗を流してくれたおかげで予定した時間より早く終了することができました。紙面を借りて、改めて感謝の気持ちを伝えたいと思います。

また、4月20日の始業式以来5ヶ月にわたり、施設を使わせていただきました、陸中海岸青少年の家、岩手県立大槌高等学校、吉里吉里小学校、吉里吉里中学校のみなさんに心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。



9月26日、小・中学校の対面式がグラウンドで行われました

校舎全景（手前が中学校棟、奥に小学校棟）

施設の貸し出しについて

10月から下記施設の貸し出しを再開します。

■生涯学習課で受付 Tel 42-2300,42-3030 城山公園体育館、中央公民館、吉里吉里小学校体育館、吉里吉里中学校体育館、吉里吉里地区体育館、相撲場、多目的体育館（弓道場）、※勤労青少年体育センター、※テニスコート

■施設で直接受付 Tel 44-2101 浪板交流促進センター

■以下の施設の申込先については生涯学習課にお問い合わせください

上町ふれあいセンター、大ヶ口多目的集会所、桜木町保健福祉会館、金沢生活改善センター、小籠多目的集会所

- ・※の施設の利用は平日 17:30～22:00、土日祝日は 9:00～22:00 です。
- ・申請受付時間は平日 8:30～17:15 です。
- ・使用料は従前の通りです。なお、減免を希望する場合は減免申請書が必要です。
- ・震災の影響で、利用できない部屋や設備があります。申請の際確認してください。

平成 23 年度町県民税納税通知書の送付と平成 23 年度所得証明書・課税証明書の発行について

東日本大震災の影響により遅れていた、町県民税納税通知書の送付と証明書の発行を、10月中旬に行います。納税通知書については期別の納期が例年と変わっていますので注意してください。所得証明書・課税証明書は 10月11日（火）から税務会計課で発行します。（手数料は各 300 円）

○普通徴収 1期 平成 23 年 10 月 31 日（月） 2期 平成 23 年 11 月 30 日（水）
3期 平成 23 年 12 月 26 日（月） 4期 平成 24 年 1 月 31 日（火）

○特別徴収（給料からの天引き）

平成 23 年 11 月から平成 24 年 5 月まで（計 7 回）の給料から天引きされます。

☎ 大槌町税務会計課課税班 Tel 42-8711

町県民税の減免について

町は、東日本大震災で被災した人に対し、町県民税の減免を実施します。

なお、町県民税の税額を決定する際、住宅に被害を受け罹災証明書が交付された方については、あらかじめ減免後の税額で通知いたします。

ただし、事業収入の大幅な減少による減免などの場合には申請が必要です。

町県民税の減免の対象と減免割合

減免の対象となる場合（※は申請が必要です）	減免の割合
死亡したとき	10分の10
行方が不明となったとき※	10分の10
生活保護法の規定による生活扶助を受けることとなったとき※	10分の10
重篤な傷病を負ったとき※	10分の10
全壊の場合	10分の10
大規模半壊または半壊の場合	10分の5
本年の事業収入などが大幅に減少する場合※	減少割合や前年の所得に応じて減免

☎ 大槌町税務会計課課税班 Tel 42-8711

所得税の還付等手続きのための相談会について

釜石税務署では、所得税の還付等手続きのための相談会を下記のとおり開催します。東日本大震災により、住宅や家財などに被害を受けた人は、平成 22 年度分所得税が軽減・免除され、還付などを受けられる場合があります。

会場	開催日	相談時間
吉里吉里地区体育館	10月12日（水）～10月14日（金）	9:30～16:30
かみよ稲穂館	10月17日（月）～10月19日（水）	
中央公民館 3階大会議室	10月20日（木）～10月21日（金）	
寺野多目的体育館（弓道場）	10月24日（月）～10月27日（木）	
釜石税務署 2階会議室	（土・日・祝日を除き開催）	9:00～17:00

※会場の混雑が予想されますので、電話予約をご利用ください。

■予約先 釜石税務署個人課税部門 Tel 0193-25-2081（代）

音声案内に従い「2番」を選択し、内線 44 番を呼んでください。

■受付時間 平日 8:30～17:00

おめでた・おくやみ（敬称略）

8月16日～9月15日分

【出生】

東梅光里（篤・新港町）

阿部一翔（司・蔵打直）

小國夏蓮（俊介・須賀町）

菊池政良（隆雄・桜木町）

平野楓歩（圭・源水）

佐々木梨花（崇行・上町）

【婚姻】

上野亮（上町）

千代川佳衣（山田町）

【死亡】

佐々木紀（55・大ヶ口一）8/16

小畑士（81・新町）8/23

小林キタノ（92・小枕）8/26

前川善四郎（81・吉里吉里二）8/27

石井スエ（81・末広町）8/28

金崎洋（69・吉里吉里三）8/29

阿部年男（86・大町）8/29

小國ヤシ（74・安渡二）9/1

阿部熊吉（87・沢山）9/2

伊勢トミ（85・栄町）9/3

松村カネ（92・吉里吉里三）9/7

高清水一孝（81・白沢）9/10

佐々木角助（88・長井）9/11

佐々木孝雄（68・中川原）9/13

平野昭右エ門（67・吉里吉里二）9/15

国際交流協会からのお知らせ

大槌町国際交流協会では、会員データが流失したため、会員の皆さまからの、住所（郵便が届く住所）、電話番号の連絡をお願いします。新たに協会に加入を希望する人もご連絡ください。

※ 10月末までにご連絡ください。

☎ 大槌町国際交流協会事務局

（企画財政課内）Tel 42-8712

生きがいセミナー追加回受講者募集

高齢者生きがいセミナー追加回「うたっこの会」の受講者を募集します。

■対象 60歳以上の大槌町民

■人数 20人

■日時 11月1日（火）

14:00～16:00

■場所 和野つこハウス

■締切 10月21日（金）

■申込方法

氏名・年齢・住所・電話番号を生涯学習課にお伝えください。

■受講料 無料

■共催 大槌町芸術文化協会

☎ 大槌町生涯学習課 Tel 42-2300

移動図書館のお知らせ

大槌町立図書館は、移動図書館を下記仮設団地集会所で実施しています。

■曜日・場所

○毎月第2・第4土曜日

大槌第5仮設集会所（大槌5-47-1）

○毎月第2・第4日曜日

小槌第8仮設集会所（小槌21-63）

■時間 10:00～15:00

また、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会と共催する移動図書館を、下記仮設団地で実施しています。

■曜日 毎月第1・第3土曜日

■時間・場所

○11:00～12:00

大槌第5仮設団地（大槌5-47-1）

○13:30～14:30

小槌第8仮設団地（小槌21-63）

○15:00～16:00

吉里吉里仮設団地

（吉里吉里中学校となり）

☎大槌町生涯学習課 Tel 42-2300

予防接種・相談・健診

予防接種などを下記のとおり実施します。会場は大槌町仮設保健センター（寺野）です。

【ポリオ予防接種】

■接種日 10月25日(火)または28日(金)

■受付時間 13:00～13:20

■対象者 平成16年5月生まれ～平成23年5月生まれ

■持ち物 予診票 母子健康手帳

【BCG予防接種】

■接種日 11月7日(月)

■受付時間 13:00～13:20

■対象者 平成23年7月生まれ

■持ち物 予診票 母子健康手帳

※予診票や母子健康手帳を流した方は、会場で相談ください。

【12か月児相談】

■実施日 10月17日(月)

■対象者 平成22年9月生まれ
平成22年10月生まれ

■受付時間

○9月生まれ 9:30～10:00

○10月生まれ 13:30～14:00

【3歳児健康診査】

■実施日 10月21日(金)

■対象者 平成20年4月生まれ
平成20年5月生まれ

■受付時間 12:00～12:30

☎大槌町福祉課 Tel 42-8715

さわやかウォーキングで健康づくり

「大槌町さわやかウォーキングの会」では、生活不活発病や生活習慣病の予防のためウォーキングを開催します。

■日時 10月19日(水)

9:00～11:00 ※小雨決行

■集合 大槌町仮設保健センター前(寺野)

■コース 寺野～三枚堂周辺

■持ち物 飲み物、タオル、帽子、雨具、歩数計、歩きやすい服装

☎大槌町福祉課 Tel 42-8715

大槌町成人式のお知らせ

町は、大槌町成人式を下記のとおり行います。

■日時 平成24年1月8日(日)

13:00～

■会場 城山公園体育館

■対象 平成3年4月2日から平成4年4月1日までに生まれた方で、町内に住所を有する方および町出身者で式典に出席を希望する方

■申込方法

①11月1日現在、大槌町在住の人

11月末日までに、成人式案内を郵送します。12月12日(月)までに返送してください。

②大槌町出身の参加希望者

12月12日(月)までに電話で申し込んでください。

※当日は、申し込みをしていなくても出席できます。

※成人式に際し、店舗の被災などの理由で着付けやヘアメイクをする場所を探している業者がありましたら、生涯学習課に相談して下さい。

☎大槌町生涯学習課 Tel 42-2300

手数料・保育料などの減免について

復旧支援のため減免していた使用料や負担金などが、10月から一部従来どおりに戻りました。内容は表のとおりです。なお、従来からある減免制度はそのままです。

■減免期間が終了したもの（負担が発生するもの）

1 土地建物に関する証明	税務会計課 Tel 42-8711
2 租税その他公課金に関する証明	
3 公簿、公文書の謄本又は抄本の交付	
4 公簿、公文書の閲覧又は公文書の写し等の手数料	
5 全部事項・個人事項証明交付手数料	町民課 Tel 42-8713
6 住民登録手数料	
7 町民生活事務手数料	
8 火葬場使用料	生涯学習課 Tel 42-2300
9 町の公の施設等使用料（従来からの減免制度は残ります。）	

■減免期間が継続するもの

1 保育所保育料（公立・私立）平成23年度分	福祉課 Tel 42-8715
2 大槌町託児所保育料 平成23年度分	

県立大槌病院10月の外来診療

■内科 月～金曜日

8:30～11:30・13:00～16:00

■外科 月～木曜日 9:00～11:00

(水曜 8:30～11:30・13:00～16:00)

※10日(月)、17日(月)は休診

■皮膚科 12日(水)・19日(水)・

25日(火)の8:30～11:30

■眼科 金曜日 8:30～11:30

■整形外科 17日(月) 8:30～11:30

☎岩手県立大槌病院 Tel 42-2121

さわやかストレッチ教室

『さわやかストレッチ教室』が内容を新たに再開します。簡単な体操をしながら楽しく体を動かしましょう。

■期日 10月11日、18日、25日(火)

■時間 10:00～12:00

■会場 和野っこハウス

(大槌第5地割47番地1)

■内容

血圧測定、ストレッチ体操、

栄養士・保健師による講話、軽食

■服装 動きやすい服装

■持ち物

水分補給用の水・お茶、上履き、

タオル、バスタオル(体操用)

☎大槌町地域包括支援センター

Tel 42-8716

いろは座&みち乃く兄弟慰問コンサート

いろは座&みち乃く兄弟が慰問コンサートを行います。

■日時 10月19日(水) 14:00～

■会場 城山公園体育館(駐車場なし)

■入場料 無料

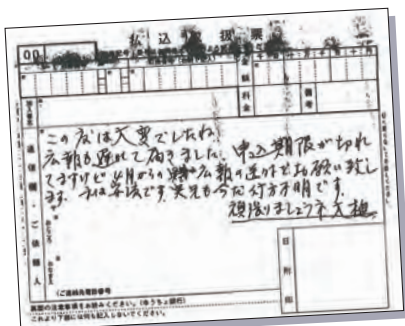
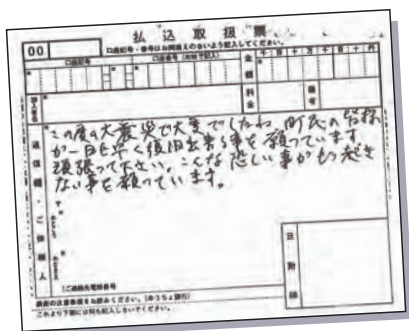
☎事務局 古館 Tel 090-5358-4789



広報の絆 広報の力

震災の日、大槌町役場から集荷された郵送用の広報は、水がかかって濡れたにもかかわらず、配達され町外に届きました。これに対し、各市町村職員や町外にいる人から、「うれしかった。」「感動した。」「大変だろうけどがんばってほしい。」などの声が役場に寄せられました。大槌町の情報が外から何も分からなかった震災直後、この広報が、様々なメッセージとなって全国にいる読者のもとへ届いていました。役場の職員も、帰ってきた声に感動し、広報紙による絆に励まされました。

復興へ向かう大槌の大きな力となる広報をこれからもお届けしていきます。



広報紙の郵送料金の払込用紙に書き添えられた、町への手紙

編集後記

▼今年4月から広報おおつち担当になりました、小笠原佑樹です。これからよろしく願います。

▼3月から災害対策本部情報「おおつち」を発行し、半年以上が経ちました。今回、やっと従来の広報おおつちを発行することができました。従来の、と言っても震災以前のものとはだいぶ変わり、まだまだ内容も遠くおよびませんが、私なりに町の話題を精一杯伝えていきたいと思っています。▼震災直後から写真を撮っていて気付くのは、町の皆さんの表情が目に見えて明るくなってきているということです。仮設住宅や復興計画など、復興の話題はたくさんありますが、私はみなさんの表情から一番「復興」を感じます。町民の表情をたくさん伝えていく広報紙を目指していきたいと思っています。取材の際はよろしく願います。

▼この広報紙を発行するにあたり、多くのご支援、応援をいただきました。本当にありがとうございます。ございました。より良い広報を作り、これから見ていただきたいと思っています。(佑樹)